

Nitto

Innovation for Customers

第155期ご報告

2019年4月1日～2020年3月31日



2019年度業績について

2019年度の経済環境は、米中貿易摩擦のみならず経済の先行きに対する不確実性が高まり、世界経済全体にマイナスの影響を与えました。Nittoグループの主要な市場においては、自動車市場において生産台数の減少が顕著となりました。スマートフォンも同様に生産台数は伸長しなかったものの、ディスプレイにおける新たな変化が見られました。また、年度末にかけて新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が拡大し、世界の各エリア・地域における外出規制や物流の停滞などによる実体経済への影響が深刻化しました。これらへの対応として、Nittoグループでは従業員の安全を最優先にテレワークなどを推進し、各国政府の要請に応じた形での対応を図っています。生産においては、中国エリアで一時的に稼働を停止したものの、春節以降、順次再開を進めました。一方、米州、EMEA、アジアの一部の現地法人では稼働が停止した状況が継続しました。なお、当連結会計年度においては、COVID-19による業績への影響は限定的でした。

2020年度の取り組みについて

2020年度の世界経済の予測は、COVID-19の世界的な拡大による経済活動の停滞や外出規制による個人消費の動向等、その影響の予測が難しいリスクが存在するほか、各国の通商問題や地政学リスク等も依然として存在し、先行きの不確実性が高まっております。

このような環境下、Nittoグループは、社内外の様々な技術や情報を融合させることで新たな価値を創出していきます。また、創業からの強みである、新技術開発・新用途開拓を追求することで新需要を創造する「三新活動」を引き続き推進し、顧客の価値創造に貢献してまいります。

2020年度の業績予想は、以下の通りとします。第1四半期及び上半期連結累計期間についての予想を開示し、通期予想については、COVID-19による影響を合理的に算定することが困難なことから未定とします。通期予想は開示が可能となった段階で、速やかに開示いたします。

2020年度第1四半期の予想は直近の受注動向や生産状況をもとに、売上収益 1,700億円、営業利益 140億円、税引前利益 140億円、当期利益 100億円と算定しております。上半期は、現時点で

見通すことのできる需要を織り込み、売上収益 3,500億円、営業利益 350億円、税引前利益 350億円、当期利益 250億円を算定しております。なお、業績予想はCOVID-19の終息時期により変動する可能性があります。

利益の還元について

Nittoグループは、株主の皆様に対して安定的に利益の還元を行うことを基本にしています。

一方、急速な技術革新への対応と顧客ニーズにタイムリーに応えるために、内部留保を使って研究・開発および生産に関わる積極的な先行投資を行っていくことも必要不可欠です。

株主の皆様に対する配当金につきましては、将来の投資機会、財務状況、資本効率、利益水準、および配当性向等を総合的に勘案して実施することとしております。また、内部留保についても定期的に水準を確認し、総合的に勘案して用途を定めていきます。

当期末の利益配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基づき、中間と同額の1株につき100円とし、年間の配当金は前期より20円増額した年間200円とさせていただきます。

次期の利益配当金につきましては、COVID-19の影響で、通期の業績予想を合理的に算定することが困難な状況のため未定としておりますが、安定的な配当を継続することを想定しております。配当予想額の公表が可能となった段階で、速やかに開示いたします。



代表取締役 取締役社長
CEO・COO

高崎 秀雄

セグメント解説

インダストリアルテープ



両面テープ

2019年度
売上高
3,179
億円

- 基盤機能材料
(接合材料、
保護材料、
プロセス材料等)
- 自動車材料

■2019年度概況

基盤機能材料では、エレクトロニクスの市場が低迷し、スマートフォン用途、電子部品の製造工程で使用される材料の需要が伸びませんでした。一方、半導体市況が低調ななかで、製造工程で使用される関連材料は堅調に推移しました。トランスポーター事業は、欧米や中国をはじめ世界の主要な自動車市場において需要が低調に推移しました。

ライフサイエンス



核酸合成材料

2019年度
売上高
271
億円

- 医療関連材料

■2019年度概況

核酸医薬の受託製造は成長する核酸医薬市場のニーズに応じて、売上収益は回復傾向にあります。核酸医薬の創薬においては、引き続き、肺線維症および難治性のがん治療薬での治験に取り組んでおります。

オプトロニクス



超薄型偏光フィルム

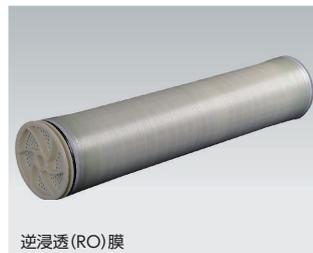
2019年度
売上高
3,989
億円

- 情報機能材料
- プリント回路

■2019年度概況

情報機能材料は、スマートフォンディスプレイの大型化に伴う光学フィルムの異形加工に対応し好調に推移しました。プリント回路では、ハードディスクドライブ(HDD)の生産台数がパーソナルコンピュータ用途をはじめ低調に推移したものの、データセンター用途の高容量化に伴い、需要が回復基調で推移しました。

その他



逆浸透(RO)膜

2019年度
売上高
269
億円

- 高分子分離膜
- その他製品

■2019年度概況

メンブレンでは、海水淡水化と環境対策に向けた各種産業用途の需要が堅調でした。また、エネルギー分野において油田採掘注入水用新規ナノフィルターレーション膜の需要が伸びました。

2019年度
セグメント別
売上高構成比

41.2% 51.7%



3.5% 3.6%

(注)

1. 売上高構成比は、全社・消去を含まずに算出しています。全社・消去の売上高は、△299億円です。
2. 各セグメントの売上高は、億円未満を切り捨てて記載しています。

「環境に配慮したものづくり」への取り組み

Nittoグループは、CO₂排出削減をはじめ環境に配慮したものづくりを積極的に推進しており、主力拠点の一つである豊橋事業所での取り組みを紹介します。

CO₂排出削減

2020年1月にコジェネレーションシステム(CGS)を導入し稼働を開始しました。当システムは、ガス燃料によりタービンを駆動させ、その駆動力によって発電機を回転させることで自家発電をします。同時にタービンの排熱から蒸気を回収し利用することで、エネルギーの利用効率を高めることが可能となります。これにより、従来に比し、7,000ton/年のCO₂排出削減を見込んでおります。

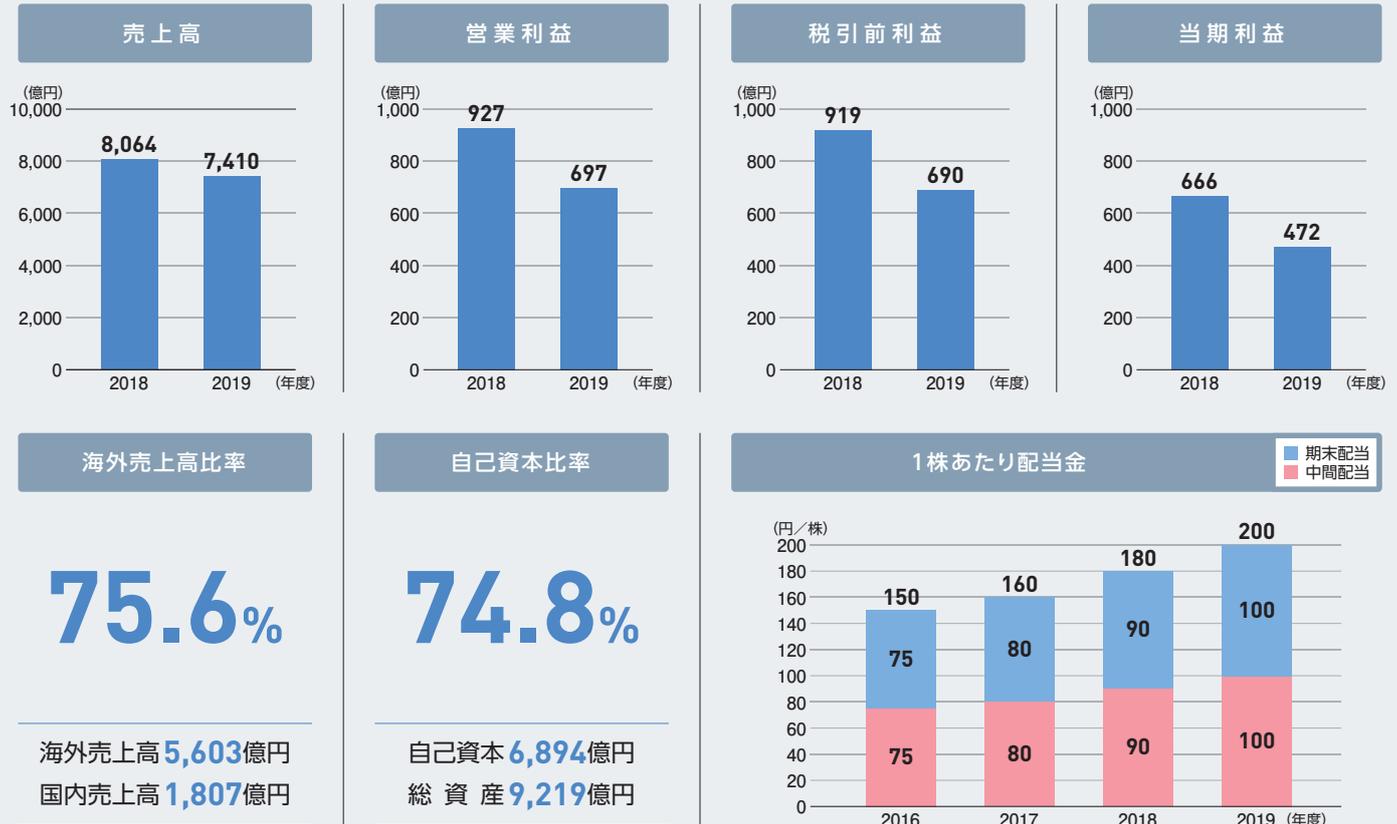
汚染・有害物質の排出削減

トルエン排出量削減の一環として酢酸エチル化を推進しています。この酢酸エチルは、これまで燃焼処理が主体でしたが、回収設備を導入し再利用化を推進しています。これにより、酢酸エチルの排出削減とともにCO₂排出削減を図っています。



2019年度 業績ハイライト

※2014年度より国際会計基準 IFRSを適用しています。



ポイント

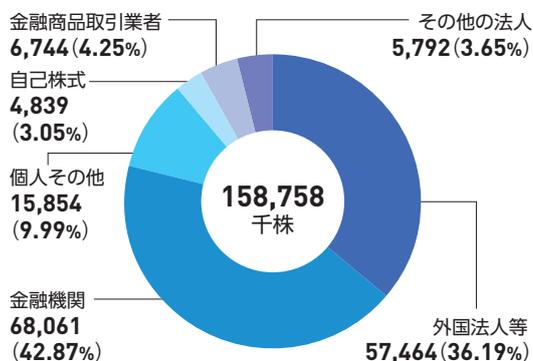
- 2019年度においては、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による業績への影響は限定的でした。
- 2020年2月から7月までを期間とし、最大500億円または最大900万株の自己株式の取得を開始しております。

株式の状況 (2020年3月31日現在)

発行済株式の総数 158,758千株
株主数 36,871名

所有者別分布状況

(単位: 千株)



株主メモ

証券コード 6988 (業種: 化学)
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当受領株主確定日 3月31日 (期末配当)、9月30日 (中間配当)
定時株主総会 6月
単元株式数 100株
上場金融商品取引所 東京証券取引所
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先 〒541-0044 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話: 0120-094-777 (通話料無料)

※株式に関するお手続きについては、当社ホームページをご覧ください。
<https://www.nitto.com/jp/ja/ir/stock/procedure/>

Nitto公式Facebookページでも情報を発信しております。
<https://www.facebook.com/nitto.branding/>



■ 表紙写真: 豊橋事業所